

# 2024 年度 日本人大学院生奨学金 奨学生募集要項

2023 年 4 月  
(公財)経団連国際教育交流財団

経団連国際教育交流財団は、教育面における国際交流を通じて、わが国と諸外国との相互理解の促進に資することを目的に、1976 年に設立された。

当財団では奨学事業の一環として、一般社団法人東京倶楽部の協力も得て、**将来、アカデミアの世界で研究者として活躍することが期待される奨学生の募集**を行う。

## 1. 募集人員（海外の大学または大学院への留学生）

- (1) 経団連国際教育交流財団奨学生（専攻分野、留学先国ともに不問）： 1 名
- (2) 東京倶楽部奨学生（専攻分野不問。イギリスに留学する者）： 1 名

※ 上記(1)、(2)ともに、以下の事項共通。(2)については、採用時に決定し、支給内容については経団連国際教育交流財団の規定に準ずる

## 2. 奨学金支給対象期間

留学を開始する 2024 年度中の新学期からの留学先大学(大学院)在学期間中  
(2 年間または 1 年間)

## 3. 奨学金支給内容

年間 350 万円を一律支給(使途は留学先の学費、生活費等、留学に関わる支出に限る)

## 4. 応募資格

- (1) 日本国民（外国籍を併せて有する者を除く）
- (2) 応募時に財団の指定するわが国の大学院に在学し、2024 年度中に留学を開始する者(研究生は応募不可)
- (3) 2024 年 3 月 31 日現在において在学期間が修士・博士両課程通算満 5 年以内の者
- (4) 学業、人物ともに優秀であって、**広く社会に貢献し、将来、アカデミアの世界で研究者として活躍する意志を持つ者**
- (5) 海外の大学または大学院に 1 年以上留学した経験がない者
- (6) 留学にあたり他の給付型奨学金を受ける予定がない者（併願は可）  
(留学先大学で授業料の減免を受けること、生活費の助成を受けることは可)
- (7) 留学先の公用語による意思伝達が十分可能な者
- (8) 語学レベルが基準以上の者
  - 英語圏へ留学希望の場合、TOEFL の成績が iBT 92 点以上(MyBest スコアでも可)もしくは IELTS の成績が 6.5 以上であること

- 英語圏以外への留学希望者で、当該国の公用語を主に研究に使用する場合、ZD(ドイツ語)、DAPF(フランス語)等の主要な語学検定試験をあらかじめ受験していること
- 英語圏以外への留学希望者で研究に使用する言語が英語の場合は、英語圏へ留学希望の場合に準ずる(この場合、研究に英語を使用することを証明する資料を添付のこと)
- 語学検定試験のない言語を研究に使用する場合は、その言語の語学力を客観的に証明する書類を提出できること

## 5. 応募方法・応募の際の提出書類

### (1) 応募方法：

**応募者**は、下の(2)に記載した提出書類のすべてを用意して、所属大学の窓口へ提出すること。当財団への直接の応募は受け付けない  
**各大学の窓口ご担当者**は、応募者の提出書類をお取りまとめいただき、受付期間内(下記(3)ご参照)に当財団までお送りください

### (2) 提出書類：選考に際し、選考委員等関係者に応募書類のコピーを配布します

＊ 提出書類一式は、選考時、選考委員等関係者で共有する。語学検定試験成績証明書等、日本語または英語以外の書類には、すべて和訳を付すこと

#### a. 願書

①上部に5×4cmの上半身・脱帽・3カ月以内に撮影の写真貼付

日本語(A4判2枚)および英語(A4判1枚) 各1部

②電子メールのアドレスについては、通常24時間以内に連絡がとれるものに限る

③学歴・職歴欄については、卒業した高校以降のすべてを記載すること  
 (学歴・職歴の区別なく、最新の状況から記載すること)

行数が不足する場合には、書ききれない内容を別紙で提出すること

備考欄には、中退・退学・転入等の別や退職の理由について記載すること

#### b. ①学長または研究科長の推薦状 と ②指導教員の推薦状

日本語もしくは英語(指導教員が外国人の場合など)

(A4判片面、各2枚以内) 各1部

#### c. 大学および大学院における学業成績証明書

日本語(学部から現在までの成績をすべて含めること)

各1部

#### d. 2021年9月以降受験の語学検定試験成績証明書の写しまたは語学力証明書

＊ A4判片面に揃えること

＊ TOEFL、IELTSの場合は、顔写真入りの成績証明書を表面・裏面各々片面コピーすること

#### e. 研究内容の概要

日本語と留学先での研究に使用する言語

(A 4 判片面、各 2 枚以内、カラー不可)

各 1 部

＊ 専攻しているテーマおよび留学先で専攻しようとするテーマについて  
簡潔にまとめること

＊ 1 枚目に応募者の大学・大学院名、氏名を明記すること

#### (3) 応募受付期間：2023 年 8 月 21 日(月)～9 月 8 日(金) 必着

＊ 配達の記録を確認できる方法でお送りください

#### (4) 応募書類送付先：

(公財)経団連国際教育交流財団

〒100-8188 東京都千代田区大手町 1－3－2 経団連 SDGs 本部 内

TEL：03-6741-0162 〈財団事務局直通〉

### 6. 選考方法

(1) 第一次選考：書類選考

(2) 第二次選考：日本語と留学先での研究に使用する言語による面接

➤ 面接の時期は 2023 年 11 月(予定) 於 経団連会館(東京・大手町)

➤ 集合時間等詳細は、第一次選考通過者に直接、電子メールで連絡する

### 7. 選考結果の通知

選考結果は大学、応募者双方に通知する

### 8. その他

(1) 応募書類は返却しない

(2) 留学を希望する大学(大学院)への出願は応募者が各自で行うこと

(3) 奨学生に採用された者が応募資格を満たさなくなった場合および大学(大学院)への入学を許可されなかった場合には奨学生としての資格を失う

《参考》 奨学生の留学先と研究テーマ(2012 年度以降)

| 年度        | 経団連国際教育交流財団奨学生                                                             | 東京倶楽部奨学生（留学先は英国の大学）                                                                  |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 2012      | パリ第 12 大学(フランス)<br>「近世フランスにおける外国人－18 世紀<br>ブリテン諸島出身者の事例から－」                | オックスフォード大学<br>「イスラーム地域における中世（11～14 世<br>紀）の人工胎土陶器の研究」                                |
| 2013      | トリブヴァン大学ネパール・アジア研究所<br>(ネパール)<br>「ネワール農民カーストにおける神仏の<br>形成－ネパール・カトマンズを事例に－」 | ロンドン大学インスティテュート・オブ・<br>エデュケーション<br>「イサム・ノグチの 20 世紀半ばの作品群に<br>みる異文化の表象」               |
| 2014      | ソフィア大学(ブルガリア)<br>「ルーマニアのブルガリア語方言における<br>目的語接語重複－言語接触と文法化の<br>観点から－」        | ロンドン大学キングス・カレッジ<br>「1580 年代英国における重層的イタリア受容<br>ブーム」                                   |
| 2015      | ボアジチ大学(トルコ)<br>「近代オスマン帝国における都市行政と<br>公衆衛生」                                 | エセックス大学<br>「新興民主主義国における軍事クーデターに<br>関する数理分析」                                          |
| 2016      | ミズーリ大学コロンビア校(アメリカ)<br>「新興民主主義国における抗議行動の活発<br>化－ブラジルの事例から」                  | バーミンガム大学<br>「シェイクスピア戯曲における沈黙と墓碑銘<br>の考察」                                             |
| 2017      | スタンフォード大学(アメリカ)<br>「資源の呪い」前史：「国家以前の石油」<br>による独立とその効果                       | ロンドン大学キングス・カレッジ<br>「核四極共鳴による地雷探知機の開発」                                                |
| 2018      | カイロアメリカン大学(エジプト)<br>「近代エジプトにおける政治と宗教」                                      | ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス<br>「報酬比率の倫理：巨額の基準の検討」                                            |
| 2019      | ボン大学（ドイツ）<br>「オットー朝期ドイツ、北イタリアにおけ<br>る立法活動」                                 | —————                                                                                |
| 2020<br>※ | —————                                                                      | —————                                                                                |
| 2021      | ハワイ大学マノア校（アメリカ）<br>「波形解析を用いたハワイ天皇海山列の地震<br>構造」                             | —————                                                                                |
| 2022      | ミュンスター大学（ドイツ）<br>「中近世ドイツに於ける大学の自意識と<br>社会に於けるその役割」                         | ロンドン・スクール・エコノミクス・アンド・<br>ポリティカル・サイエンス<br>「教育ビッグデータへ適用できる計算効率性<br>に優れた教育測定モデルの推進法の開発」 |
| 2023      | ブラウンシュヴァイク工科大学（ドイツ）<br>「ミバエ由来フェロモンの化学的研究」                                  | —————                                                                                |

※ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により合格者が留学を断念したため、対象者なし

以 上